

Israel Monthly Trends

2025年10月

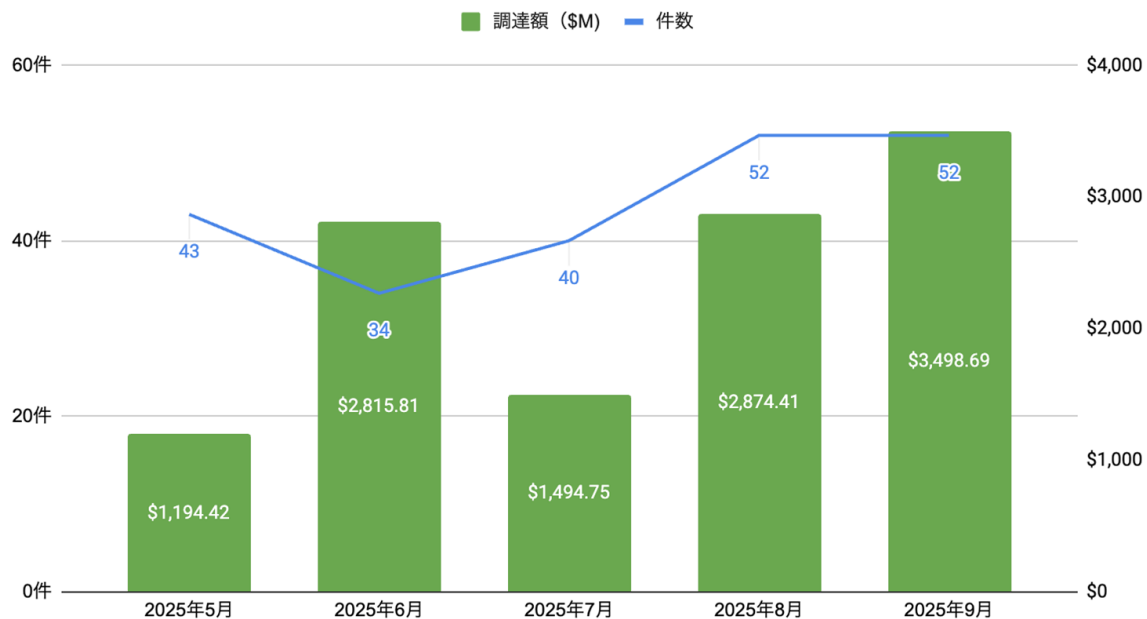
目次

- | | |
|---------------------|-----|
| 1. イスラエルの現在の状況_10月 | p.2 |
| 2. 今月の注目テーマ： 自動運転 | p.3 |
| 3. 自動運転に関連するスタートアップ | p.4 |

1. イスラエルの現在の状況_10月

2025年8月16日から2025年9月15日におけるスタートアップへの資金調達動向は、案件数が52件、調達総額は34億9,869万ドルに達した。前回（7月16日から8月15日）の資金調達に比べて、案件数は同数ながら、調達総額は増加した。

イスラエル・ハイテク企業 月別資金調達推移



出典：IVC Data（2025年9月16日アクセス）、Jakore作成

本レポートの毎月のデータ収集期間は、前月16日から当月15日までとなる。

2025年8月中旬から9月初旬にかけて、エンタープライズソフトウェア・インフラ分野のWix社がPIPE（私募による上場企業への投資）で10億ドルを調達したほか、半導体分野ではNova社がPIPEで7億5,000万ドル、Camtek社がPIPEで4億2,500万ドルを確保した。また、エンタープライズソフトウェア・インフラ分野のEarnix社はセカンダリー・ディールで2億4,000万ドルを確保した。いずれも大型案件であり、テック主力分野（エンタープライズSaaSや半導体）への資金回帰を示す動きが鮮明となった。

2. 今月の注目テーマ：自動運転

イスラエルの自動運転は、規制サンドボックスと実証環境を核に据え、複数の技術レイヤーが連動する構造を形成している。Mobileye社の量産プラットフォームを基盤に、Imagry社は国家許可によるマップレス運行を実現し、Foretellix社は検証プロセスの自動化を担う。Innoviz社の自動車グレードLiDARが加わることで、公共交通からロボタクシーまで幅広い実装が進展している。政府支援の制度設計が開発と導入を加速させ、都市部からネゲブ砂漠に至るまで多様な環境での実証資産が差別化を支えている。

イスラエルでは、自動運転を国家的な実装課題として位置づけ、規制サンドボックスと公共交通への統合を柱に制度を整備している。象徴的な事例として、Imagry社が自動運転電気バス運行で国家レベルの許可を取得したケースが挙げられる。これは、制度と実装が相互に作用する枠組みを示すものである。

主要な取り組みと成果

イスラエルの自動運転分野における主要な取り組みと成果の中核は、産学官連携と国際協業である。Imagry社はマップレス方式で都市バス運行に国家レベルの許可を得ており、HDマップに依存しないことで新路線展開を迅速化する技術的優位を示した。これにより公共交通への実装が加速している。Hailo社は低消費電力のエッジAI推論を提供し、車載リアルタイム処理の実用化を支えている。Vayyar社は4Dイメージングレーダーで車内外監視を単一デバイスで可能とし、Cipia社はドライバー・乗員監視システム（DMS/OMS）で量産採用を獲得している。Foretellix社は数百万シナリオの自動評価を含む検証基盤を構築し、安全性と開発効率を高めるとともに、運航設計領域（ODD）拡張にも寄与している。

また、AVATARコンソーシアムはLiDAR・カメラ・レーダーの高度センサーフュージョン概念実証を推進し、関連する公的資金は合計7,700万NIS（約2,080万ドル）に達し、産業の加速装置となっている。車車間・路車間通信（V2X）やスマートインフラでは、国家レベルの実証に加え、NoTraffic社が交差点通過効率を40%向上させるなど、都市最適化の成果も現れている。こうした技術と制度の積層により、公共交通、物流、商用フリートでの段階的実装が現実解として進展している。

今後の展望

今後は、多様な環境での検証力と制度面の先行事例を梃子に、公共交通・ロボタクシー・物流への段階的な拡大が見込まれる。ネゲブ砂漠を含む実証資産は、耐環境性やスケール適応の検証に有用であり、国際連携の促進にもつながる。検証・認証の領域では、大規模な自動化評価や合成データの重要性が一層高まり、ODD拡張と安全性証明が効率化する。インフラ面では、V2Xとスマート信号の横展開が協調型自動運転を後押しする。産業面ではエッジAI、LiDAR、4Dレーダー、車内センシングの統合が進み、イスラエル・イノベーション庁（IIA）による支援などを背景に、PoCから商用への移行が加速する。体系的アプローチは他地域の参照モデルとなり、日本企業との協業余地も広がると期待されている。

出典：<https://innovationisrael.org.il/en/programs/autonomous-vehicles-in-israel-forming-regulatory-framework-program-c4ir/>

3. 自動運転に関連するスタートアップ

- **hiSky Ltd.**

(<https://hiskysat.com/>)



hiSky社は、低ビットレートの衛星IoTおよび音声・データ通信を提供するイスラエル発の通信ベンダーである。スマートデバイスと接続する端末群により、遠隔地や災害時の音声通話やメッセージ送受信を低コストで実現している。2024年にはIntelsat社からの出資と戦略提携を発表し、産業向けIIoT分野での展開を強化した。2015年設立で、IoTエコシステム向けの衛星接続を主力とし、海事やエネルギー分野の監視用途で採用が拡大している。

- **Foretellix Ltd.**

(<https://www.foretellix.com/>)



Foretellix社は、自動運転および先進運転支援システム（ADAS）向けの検証自動化プラットフォーム「Foretify」を提供し、実走行・シミュレーション・合成を統合した大規模データ生成と評価により、AIスタックの訓練、検証、安全評価を支援する。さらに、NVIDIA Omniverseなどを活用した高忠実度センサーデータ生成と安全評価機能を拡張し、開発期間の短縮とコスト削減を実現している。Geely社など自動車OEMとの協業により商用化を加速しており、ASAMおよびISO準拠した検証管理まで一貫対応する体制を整えている。

- **Arbe Robotics Ltd.**

(<https://arberobotics.com/>)



Arbe Robotics社は、4Dイメージング・レーダーを専門とする企業であり、独自のチップセットとパーセプション・レーダー「Phoenix」を中心に展開している。48×48チャンネルの大規模構成による2K級の超高解像度を特徴とし、広視野角と長距離検知を両立しながら誤検知を抑制する性能を備える。これによりADASから完全自動運転に至るまでの幅広いレベルでの利用が可能となっている。2025年にはスウェーデンのTier1であるSensrad社が同社技術を採用した量産レーダの出荷を開始し、商用展開が本格化している。